

青年部活動に参加して「青年部で学んだこと」

久喜市商工会青年部 山本康道  
埼玉県久喜市下早見 1832-5  
有限会社山本機設（0480-22-2377）

Where there is a will. There is a way.

これは「強い意志があるところに、道は開ける」という私の大好きなリンカーンの言葉です。  
そして、この言葉をもっと好きにさせてくれた青年部と私の物語を、お話し致します。

皆さんこんにちは。

私は、久喜市商工会青年部の山本康道と申します。

現在私は、父が経営している配管設備会社で働きながら、経営者を目指して日々勉強中です。

私が入部したきっかけは、青年部が主催するくき市へ遊びに行った時でした。そこで地域の  
ために生き生きと活動している部員の姿を見て、私もこの団体の一員になりたいと思い、青  
年部の門を叩きました。

期待に胸を膨らませていましたが、コロナによる緊急事態宣言が発令され、青年部活動どこ  
ろか、ただ集まる事さえ出来ない状況になり、折角期待を持って入部した青年部に対して、  
もどかしさと無力感を感じていました。

そんな中、久しぶりに委員会がリモートで開催され、  
「今年は、コロナが怖いから、俺ら、何もできないね。」  
私も、  
「仕方ないですよ。クラスター出したら大変ですから。」  
そんな話をしていたら、一人の部員が大激怒しました。  
「おいちょっと待てよ！出来ないんじゃないくて、やらないだけだろ。  
みんなで考えてみようぜ！」

この言葉を聞いた時、自分の弱さに恥ずかしさを感じました。

この発言をきっかけに、私たちはコロナ禍で地域のために何が出来るか話し合いを始めます。

「コロナで一番影響を受けたのは、子供たちかな。」

「そう言えば、子供がずっと家に居るのが可哀想だから、しらすぎ公園に連れて行ったんだ。そしたら昔と違って、汚くてさー、悲しくなったよ」

「あれ？公園を綺麗にするのだったら、いろんな職業の人間がいる青年部なら出来るんじゃないですか？配管工事だったら私できますよ！」

初めて青年部活動で前向きな行動をとれた瞬間でした。

こうして事業「久喜プロジェクト・公園リフォーム at しらすぎ公園」がスタートしました。

しらすぎ公園とは、久喜市が管理している、東京ドーム半分の広さを誇る立派な公園です。

まず始めに久喜市へ今回の企画内容を説明した所、一市民が自力で公園をリフォームするというのは前例がない、どのような仕上がりになるかわからないと、あまりいい顔をされませんでした。

実際に委員会で公園の現地調査を行うと、

遊具はさび付き、水飲み場は配管が壊れて使えず、

トイレ前の目隠しは腐って便器が外から丸見え、小山にあった滑り台は雑草だらけ、

公園の予想以上の荒れ具合と、市の消極的な対応に意気消沈しました。

しかし、市の対応と公園の現状を委員会で報告すると、

「だったら、俺らがプロの力を見せてやるよ！」

塗装、土木、建築などの工業系部員の心に火が付いたのです。

行政側の不安を取り除き、納得させる施工計画書を作る為、彼らと共に再度現地調査を行い、プロの目線を交えた会議を何度も行いました。

コロナ禍を考慮して短期間で作業を終わらせる方法や部員全員が参加しやすい方法などを試行錯誤を繰り返し、ついに施工計画書が完成。

部員全員の思いを背負い、再度久喜市へ説明を行い、

無事公園リフォームの許可を頂くことができました。

青年部のプロの力と熱意が、前例のない状況を打破したのです。

そして事業初日、錆びていた遊具を部員たちが丁寧に塗装しはじめ、壊れた水飲み場に新しく配管をつないで周辺を玉砂利で舗装、汚れまみれだったトイレをきれいに磨き上げ、新しい目隠しの設置工事を行いました。

小山の斜面には、綺麗な人工芝を敷き詰め、段ボールを使って滑る楽しい遊び場になっていきます。公園はどんどんときれいな姿を取り戻して이었습니다。

実際に工事をする部員は飲食店や美容師、幼稚園の先生など商業系の部員たちが大多数でしたが、部員同士で連携を取り、素晴らしいクオリティとスピードで完成して이었습니다。

事業2日目、順調に進んでいると思いきや、問題が発生しました。塗装と人工芝を敷き詰める作業に想定以上に時間がかかり、当日中に終わらない可能性が高くなったのです。

そのとき、

「おーい！遅れてごめん！

今日仕事なんとか早く終わらせてきたから、なにか手伝うことない？」

と部員が息を切らしながら駆けつけてくれました。

あれよあれよという間に、多くの部員が集まり、他の作業を終えた部員たちと合流し、青年部一丸となって、遅れていた作業時間を取り戻すことができたのです。

こうして2日間、延べ100名以上の部員により、すべての作業を終えることができました。公園は以前とは見違えるほどきれいになり、リフォームの噂を聞きつけた子供達を楽しそうに遊んでいる光景を見て、部員たちも笑顔になったのを今でも覚えています。私が想像していたかっこいい青年部の姿がそこにありました。

いまでも公園前を通りかかると、親子連れから小学生、お年寄りに至るまで笑顔で公園を使っている姿を見かけます。

後日、この事業に対し久喜市から感謝状を頂くことができました。翌年には、リフォームを行った実行力と熱意を買われ、久喜駅前でのクリスマスイルミネーション事業を市と連携し実行したことで、行政との信頼関係をより深めることができました。

今、出来る事は何かを模索し、チャレンジしていく。

現在、私は青年部で得た経験を活かし、今まで関わったことのない外構工事・内装工事の仕事や、商工会が実施する経営革新の取得に逃げることなくチャレンジしています。

入部した当時、私はコロナにより自粛を余儀なくされた環境に甘え、心に言い訳をし、できない理由を探していました。

しかし、どんな時でも助け合う仲間がいて、どんな事業でも熱意をもって最後までやり抜く、そんな部員の姿を見て私は前を向きチャレンジしていくことの大切さを教わったと同時に、優しさと情熱を持ったこの団体の一員になれて本当に良かったと思っています。

青年部活動を行う中で、これからも幾多の困難にぶつかると思いますが、私たち青年部が、地域に喜びを与える存在であり続けるため、全力を尽くしてまいります！

「強い意志があるところに、道は開ける」  
Where there is a will, there is a way.

ご清聴ありがとうございました。